

## 道守が行う地域の維持・活性化活動の実態と道守九州会議の役割

九州工業大学 学生会員 甲木悟明, 非会員 門司雅道, 正会員 吉武哲信

## 1. 背景及び目的

近年、インフラの老朽化や資金不足、労働力の減少等によってインフラの維持管理が行政だけでは困難になりつつあり、地域住民等と行政が連携する官民協働の維持管理が注目されている。たとえば、九州地方では道守活動が展開されている。

ただし、道守活動はたとえばボランティアサポートプログラム(VSP)のようなアダプト型の官民共同維持管理活動とは異なる性格を持つ。すなわち道守活動は、植栽や清掃のような道路維持管理活動だけでなく、イベントや観光系の地域づくり活動、災害時の復旧支援活動などを行う道守(活動者)が多く、それらも含めて道守活動として考えている。このような多様な活動を実施できる個人・団体は、過疎化・高齢化による人的資源の制約の中で、今後の地域の持続可能性を確保する上で重要な役割を担う。実際、道守(活動主体)は道守九州会議(道守で構成される任意団体、以降、道守会議)<sup>1),2)</sup>だけでなく、複数のボランティア系団体や役職に属しながら(多重性)、地域を越える人的ネットワークを通じて(連携性)、様々な内容の活動を行っている(多様性)。道守会議はそれらの活動をすべて道守活動として捉え、道守活動、道守間の相互支援をサポートしている。なお、この道守会議は、道に関わるボランティア活動者(道守)またはそれらの支援を行う団体(企業、NPO等)で構成される任意団体である。この道守会議は、国・県・市町村で構成される行政協議会と公式に連携するように位置づけられている。

以上のように道守活動はその多重・連携・多様性が特徴であるが、この観点から既往の研究を見ると、たとえば駒田ら<sup>3)</sup>は横浜市の緑道「今井川いこいの水辺」を対象として、水辺の愛護活動がコミュニケーションの広がりや深まり(連携の拡大)といった効果を生み出すこと、より良いコミュニティ形成には行政からの情報提供や技術支援(行政との連携)を充実させることが重要であることを明らかにしている。その他にも特定の活動やコミュニティを対象とし、これら3つの特徴のいずれかに関係する地域づくり等に関する研究

は見られる<sup>4),5)</sup>。ただし地域づくり等の諸活動は、これら3つの特徴を併せ持つ個人や団体が行っていることが通常であろう。

そこで本研究では、道守の多様・多重・連携性といった特徴を探りつつ、それらの特徴を道守活動者がどのように活用しているのかを明らかにする。併せて、それらの特徴を支える道守会議の仕組みについても分析するものである。

## 2. 調査の設計

調査は、道守に対する半構造化インタビューで実施した。調査対象者は、道守会議や行政(国土交通省・県・市町村の道守担当部局)から活動の活発な道守を紹介していただき、またその方から別の道守を紹介していただく形で拡大した。

調査は、道守活動の基本である日常の道路維持管理活動の実態、道守活動の特徴をなす道路維持管理以外の活動の実態、各種の活動間の関係性(活動内容や道守間の連携を含む)、また、活動継続の工夫と課題を聞き取る。併せて道守の基礎情報として居住地や職業、所属や役職等も問う。また、道守会議の役割を確認するため、所属したきっかけや理由、道守九州会議の魅力、県会議等の道守会議が行う取組、道守及び活動の維持拡大に対する今後の考えについて把握する。

## 3. 道守活動者の多様・多重・連携性

## (1) 調査対象者の整理

表-1に現時点で調査済みの道守10名の居住地、職業、所属する県会議とその県会議での役職の有無、道守会議への参加形態(個人、ボランティア団体、その他企業等)とその団体・企業での道守に関わる役職有無、風景街道への所属を示す。風景街道は、道を舞台に風景や自然・歴史・文化等の地域資源を活かした地域づ

表-1 調査対象者

活動者	居住地	業種	所属会議	役職	参加形態	役職	風景街道
A	薩摩川内市	情報通信業	鹿児島		ボ	○	○
B	大牟田市	卸売業・小売業	福岡	○	個		
C	鹿屋市	卸売業・小売業	鹿児島		他	○	
D	久留米市	製造業	福岡		他	○	
E	柳川市	教育・学習支援業	福岡	○	個		
F	西海市	サービス業→農業、林業	長崎	○	ボ	○	○
G	雲仙市	建設	長崎		ボ	○	○
H	由布市	宿泊業・飲食サービス業	大分	○	個		
I	うきは市	農業、林業	福岡	○	ボ	○	○
J	佐伯市	公務→建設	大分		他	○	

凡例 個：個人 ボ：ボランティア団体 他：その他の団体(企業等)

くりを行う団体であり、道守会議と関係が深いため、併せて整理した。

同表より、調査対象者は多様な業種の従事者であること、さらに公務や建設等のように道路維持管理に専門的な知識を持つ方も存在していることがわかる。また、所属県会議または道守会議のい

ずれかで役職がある。これは活動が顕著な道守が役職と結びついていることによるものだろう。また、風景街道については4名が参加している。風景街道との関係については、次節で改めて触れる。

**(2) 多様・多重な活動**

表-2にそれぞれの活動者が行う日常の道路維持管理活動とそれ以外の活動内容、また、日常の道路維持管理以外の活動について、種別と活動への参加形態、活動に参加した連携相手、活動の開始・参加のきっかけとなる連携相手、資金等の間接的に活動を支え、活動者と連携した支援(協力)相手とその内容を示す。

同表から、道守は日常の道路維持管理以外に、活動a, b, e等の環境系(道路以外の維持管理等)や活動c, g, r等のイベント(花いっぱい運動や祭り等)、活動f, u等の災害支援(道具支給や募金等)等の多様な活動を行っていることがわかる(多様性)。また、同表の活動への参加形態で、活動者は複数の団体に所属し、多様な活動を行っていることもわかる(多重性)。

一方で、活動への参加形態で4件の風景街道が確認でき、その中で環境系が3件、イベント系が1件を確認した。つまり、風景街道への所属が道守の多重性を強調し、風景街道での活動が道守の多様性に繋がっている。

**(3) 活動時の連携**

同表の活動への参加形態と参加連携より、地域のボランティア団体や道守、風景街道の活動に地域住民や学生等が参加したり、風景街道の活動に地域住民が参加したりする等の地域内での連携が確認できた。

同表の活動の開始・参加のきっかけより、行政をきっかけとして活動を開始する例は2件(国：1件、公民館：1件)確認できるが、資金の支援相手、資金以外の

**表-2 多様な活動**

活動者	日常の道路維持管理活動	日常の道路維持管理活動以外の活動内容	活動種別	活動への参加形態	活動への参加連携(参加形態を除く)	活動の開始・参加のきっかけとなる連携相手	資金の支援相手	資金以外の支援相手と内容
A	清	a 乗山づくり	環境	湯田口20日会	地(学)		行(市)	
		b 耕作放棄地での資材の作製	環境	湯田口20日会			行(市)	
		c 閉校跡の壁画の作製	その他	個				
		d 道守の花壇のステッカーやシールの作製	その他	道守鹿児島会議		他		
B	清, イ	e 絵本美術展の清掃	環境	道守大牟田ネットワーク				
		f 災害支援活動	災害支援	ライオンズクラブ				
C	清	g 花いっぱい運動	イベント	商店街振興組合	地		行	
		h グリーンカーテン事業	環境	商店街振興組合	地		行	
		i ぼろ拾い	環境	丸ゴミ	地(学)			
D	清, イ	j 川沿いの清掃	環境	企業				
E	イ	k マイストーン	イベント	福岡県南地域(道守)	行(国)	行(国)		石(行政:国)
F	清, 花	l 大島島めぐりマップ	観光	環境美化を考える会			他	
		m 学校の総合学習	教育	環境美化を考える会			他	
		n 風景街道のイベント	イベント	風景街道(ザ)	地			
G	清, 花	o 小学6年生との記念植樹	環境	小浜温泉57			他	
		p 風景街道のイベント	環境	風景街道(島)	地		行	
H		q 道の駅で植栽と防災セミナー	イベント	道守大分会議	駅, 他		行	
I	花	r 福祉・コスモス祭り	イベント	千年コスモス街道	地, 行(公民館)	行(公民館)	行(公民館), 他	
		s 風景街道の活動	環境	風景街道(み)			行	
J	清	t 別大園道の掃除・花植え	イベント	道守大分会議	地			送迎(行政)
		u 募金活動	災害支援	婦人会	駅	他		
		v 雑巾の作製	災害支援	婦人会	他	他		

凡例 清：道の清掃 花：花の植栽管理 イ：一斉清掃や花街道プロジェクト等のイベント化した道路維持管理活動  
 個：個人 地：地域住民 地(学)：地域の学生 行：行政、行政の外関係団体 駅：道の駅 他：その他  
 サ：ながさきサンセットロード 島：島原半島うみやま街道 み：みどりの里・耳納風景街道

支援相手より、行政の支援を頼りとする例は10件(国：1件、市町村：2件、公民館：1件、不明：6件)確認できた。活動者は活動をする中で、行政との人的ネットワークを形成したと考える。

また、活動者Jの活動x(災害支援活動)は市境を越える活動で、その活動の開始のきっかけとなる連携相手が「全国みちづくり女性ネット」で形成された地域を越える人的ネットワークによるものであった。

これより、道守は行政や地域、地域を越える広域レベルの人的ネットワークを持つことがわかる(連携性)。

**4. 今後の研究**

目標ヒアリング実施人数は30人程度で、1月中旬までヒアリングを進める予定である。今後、連携による活動継続の課題や工夫、現在の分析をより分かりやすい形にし、道守の特徴を明らかにする。また、道守九州会議への所属したきっかけや理由等の結果から道守九州会議及び活動の所属・継続要因、活動者の今後の考えについて分析を行い、道守九州会議の役割を明らかにする。さらに、これらの分析を通して、道守の拡大や行政の役割、道守が行う地域の維持・活性化活動の持続可能性を考察する。

**5. 参考文献**

- 1)道守九州会議、道守ホームページ、<http://www.qsr.mlit.go.jp/n-michi/michimori/about/gaiyo/index.html>,(2022,12.23)
- 2)道守九州会議：道守通信、創刊号、2004.02.25
- 3)駒田健太郎ら：今井川いこいの水辺における住民による管理運営活動がコミュニティ形成に及ぼした効果、ランドスケープ研究、2006、69(5)、p627-630
- 4)片岡由香：市民組織と行政の協働関係の構築とその要因、都市計画論文集、2014、49(1)、p19-24
- 5)西田正憲：阿蘇草原の観光開発と新たな動き、都市計画論文集、1999、34、p343-348